

歯 科 口 腔 用 剤

※ヨードヨード亜鉛カントップ用消毒液「昭和」

IODINE ZINC IODIDE DISINFECTANTS for KANTOP “SHOWA”

※承認番号	22000AMX00588000
※薬価収載	2008年 6月
※販売開始	2008年 6月
再評価結果	1985年 7月

貯 法：室温保存
使用期限：5年(外箱に表示)

【組成・性状】

有 効 成 分	1 mL中
(日局)ヨウ素	11.25mg
ヨウ化亜鉛	281.36mg

〈製剤の性状〉

本剤は暗赤褐色の液で、ヨウ素のにおいがある。

【効能又は効果】

根管の消毒

【用法及び用量】

歯科領域における薬物電気導入器用の薬液として、髄腔内に適量を挿入し使用する。

【使用上の注意】

適用上の注意

- (1)軟組織に対し局所作用をあらわすので、口腔粘膜等に付着させないよう配慮すること。
したがって、使用に際してはラバーダム防湿等を行うこと。
- (2)本剤が口腔粘膜等に付着した場合は、ただちに拭きとり、微温湯で洗口させること。
また、手指等に付着した場合は、石けん等を用いて水洗し、適切な処置を行うこと。
- (3)本剤は薬物電気導入器カントップ用の薬液としてのみ使用すること。

【臨床成績】

大谷¹⁾はヨードヨード亜鉛イオン導入で30例中17例が1回で、11例が2回の通電で塗抹標本及び培養試験ともに無菌となり、イオン導入による根管消毒は歯周組織を刺激することが少ないと報告し、松本ら²⁾はイオン導入器カントップエースⅡ型の臨床試験の中で、ヨードヨード亜鉛液を用いた前歯10例については、すべてにおいて1～2度の通電で培養検査陰性の結果を得た。また米田ら³⁾は同様に計42例に応用し、そのうちヨードヨード亜鉛液は18例に使用して、初めから培養検査陰性であった2例を除いて13例に陰性の結果を得た。

【薬効薬理】

ヨードヨード亜鉛液は、ヨウ素の殺菌作用⁴⁾とヨウ化亜鉛の局所殺菌収れん作用⁵⁾を期待し、イオン導入法の薬液としている。

イオン導入法は、常法の根管治療で消毒が行われがたい根尖分岐、根管側枝に薬液の浸透を助ける⁶⁾。

また、イオン導入法は分岐根管開口部の炎症をよく治ゆせしめ、あたかも消毒後の分岐根管に根管充填を行ったように働くといわれ^{1),7)}、これは象牙質内のCa⁺⁺と置換が起こり、分岐根管輸送されたZn⁺⁺は、一部不溶解性の亜鉛化合物として沈殿し、裂隙の閉鎖をもたらすこと、すなわちイオン導入で分岐根管の消毒と充填が併せて行われる¹⁾。

※※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ヨウ素 (Iodine)

原子式：I

原子量：126.90

性 状：灰黒色の板状又は粒状の重い結晶で、金属性の光沢があり、特異なおいがある。ジエチルエーテルに溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けやすく、クロロホルムにやや溶けにくく、水に極めて溶けにくい。ヨウ化カリウム試液に溶ける。常温で揮散する。

一般名：ヨウ化亜鉛 (Zinc Iodide)

分子式：ZnI₂

分子量：319.20

性 状：白色又はほとんど白色の粉末でにおいはなく、食塩様の味がある。空気及び光により褐色となる。吸湿性である。

【取り扱い上の注意】

本剤は薬物電気導入器カントップのイオン導入の薬液として用いるものです。使用にあたってはカントップの説明書を御覧下さい。

【包 装】

25mL

※【主要文献】

- 1) 大谷 満：口腔病学会雑誌 25(4), 454～474 (1958)
- 2) 松本光吉ほか：日本歯科評論 464, 233～241 (1981)
- 3) 米田栄吉ほか：昭和薬品化工(株)社内資料 カントップ・エースⅡの臨床応用 (1980)
- 4) 鈴木賢策ほか：グロスマン エンドドンティックス8thed. (医歯薬出版) 204, 240～242 (1977)
- 5) THE MERCK INDEX 13th ed. 10193 (2001)
- 6) 鈴木賢策ほか：最新歯内療法アトラス (医歯薬出版) 283～284 (1972)
- 7) 永沢 恒：最新根管治療指針 (歯界広報社) 107～112 (1972)

※※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目17番11号

TEL：0120-648-914

FAX：03-5579-9592

〈受付時間〉9：00～17：30（土・日・祝日・当社休日を除く）